

令和7年度 「 情報 I 」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新編情報 I (東京書籍)		情報 I 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
13(水S4 含む)	6	年2回	前期3回 後期3回(年間6回)	

○ 「 情報 I 」の学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育てる。

○ 学習内容の概要

現在は情報技術とデータ活用が前提とされる新たな時代といえます。新たな時代に必要な情報の知識・技能を学びます。

1年間のレポートとスクーリングで、①情報社会の問題解決 ②コミュニケーションと情報デザイン ③コンピュータと情報デザイン ④情報通信ネットワークとデータ活用等を学習します。

情報の知識とそのデータの活用の基礎を学習し身に付けます。

レポートは、科学的に見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することを目標とし、スクーリングでは情報社会に主体的に参画するための資質・能力の習得を目的にしています。そのため、レポートで学習する内容とスクーリングで実施する内容は一致しません。

○ 情報科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

レポートでは、自らの課題を見つけてそれを解決していける能力を身に付けるように心がけましょう。この能力は、今後のSociety5.0に生きるために必要な能力です。

評価は、テストのみならず、実習への意欲や態度などを総合して評価します。意欲的に取り組む姿勢が大切です。

◎ 学習計画

スクーリング PC実習も行うため、下記の学習内容と異なる場合もあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	11	日	導入・心がまえ	レポート、テスト、スクーリングの説明 これからの授業に大事な内容を説明します	はスクーリングとレポートは対応していません。
2	6	8	日	1章情報で問題を解決する	問題解決の流れを学習する	
3	6	11	水	情報化で変わる世界	情報技術の発展を学習する	
4	6	25	水	デジタルの世界	デジタルの世界とは何か学習する	
5	7	20	日	2章情報を伝える	デジタル表現を学習する	
6	7	27	日	情報デザイン	情報デザインの流れを学習する	
7	8	24	日	3章コンピュータを活用する	アルゴリズムプログラムの仕組み・作り方を学習する	
8	10	19	日	モデル化とシミュレーション	モデル化の考え方とモデルの分類を学習する	はスクーリングとレポートは対応していません。
9	11	12	水	プログラムの活用	プログラムの活用・シミュレーションの必要性を理解する	
10	11	30	日	4章データを活用する	情報通信ネットワークとは何か学習する	
11	12	14	日	データの活用とデータベース	データベースを処理するシステムを学習する	
12	12	21	日	5章活動して提案する	データの種類と尺度とは何か学習する	
13	1	14	水	データの分析	データを可視化する方法を学習する	

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	28	水
2	6	25	水
3	7	23	水
4	10	29	水
5	11	26	水
6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートNo.1～3を中心にその部分の教科書から出題します。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートNo.4～6を中心にその部分の教科書から出題します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書を参考にすることで、大部分の問題の解答が作成できます。
- ・空欄など不備が多いと再提出になります。
- ・わからない問題等はそのままにせず、スクーリングで質問して解決しましょう

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能(技術)	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人の関わりについて理解している。
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b)評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。